

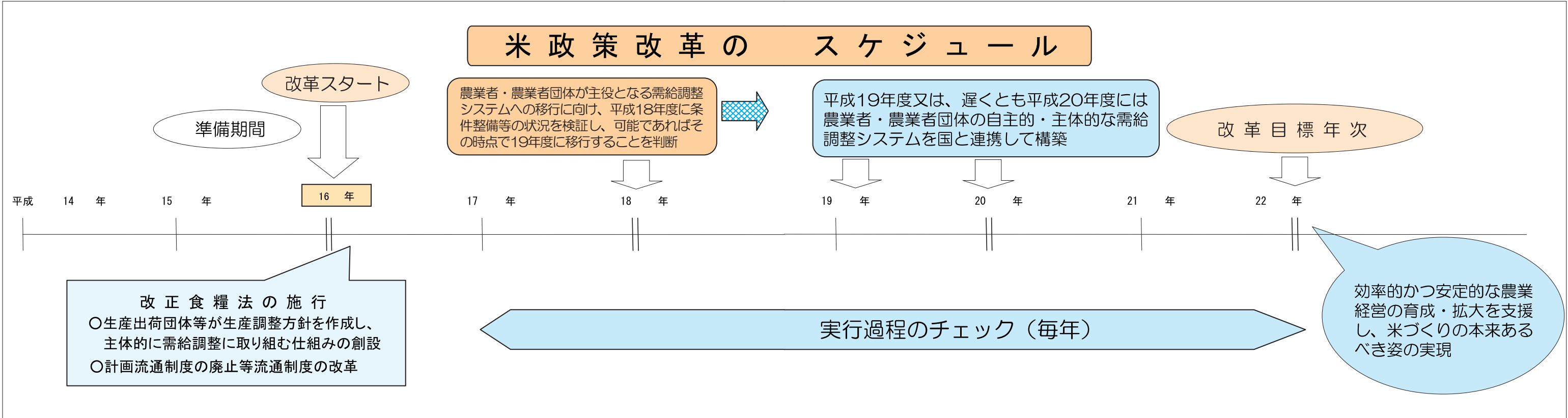
水田農業のあるべき姿の実現に向けて

農業者・農業者団体の自主的・主体的な需給調整システムへの円滑な移行、ビジョンの取組状況の点検・見直しを積極的に進め、構造改革を推進しましょう。



平成17年1月

農林水産省米政策改革推進本部



地域で取り組んでいただきたい3つのポイント

ポイント1

農業者・農業者団体の自主的・主体的な需給調整システムへの円滑な移行に向けて、意識改革を進め地域で穫れる米の需要に応じた生産を推進しましょう。

売れる米づくりや地域水田農業ビジョンの実現に向けて、地域や農業者に対する生産目標数量の設定の考え方を工夫しましょう。

ポイント2

農業で他産業並みの所得をあげ得る経営を育成するため、地域水田農業ビジョンに位置づけられた「担い手」が認定農業者になるよう誘導しましょう。

ビジョンに位置づけられた多様な担い手を育成し、水田農業の構造改革を推進しましょう。

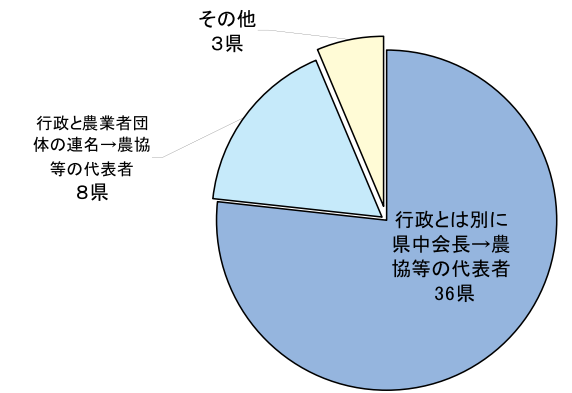
ポイント3

構造改革や産地づくりの推進といった地域水田農業ビジョンの実現に向けて、産地づくり交付金を有効に活用しましょう。

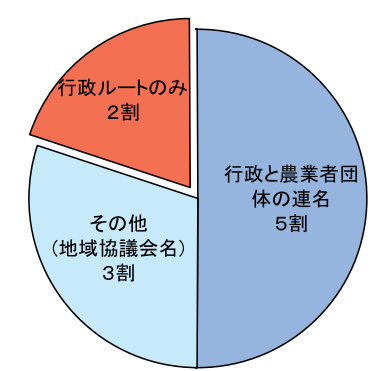
「産地づくり交付金」は、地域水田農業ビジョンの実施状況の点検と合わせて、毎年度当初見直すことが可能です。

○ 生産目標数量の配分（16年）

都道府県段階から市町村段階への配分は、ほとんどが行政と農業者団体の両ルートで配分

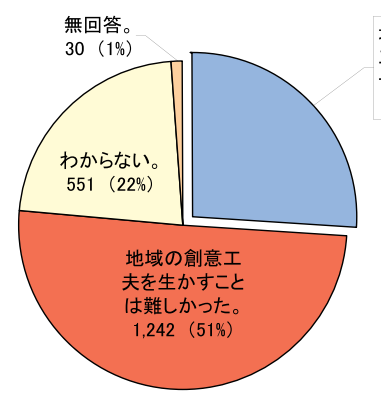


市町村段階から農業者への配分は、行政と農業者団体の連名または地域協議会名の形で行われている市町村が8割



○ 産地づくり交付金と地域の創意工夫（16年）

地域の創意工夫を生かした地域は3割程度



地域の創意工夫を生かした点

地域の重点推進作物の振興

担い手の育成・構造改革の推進

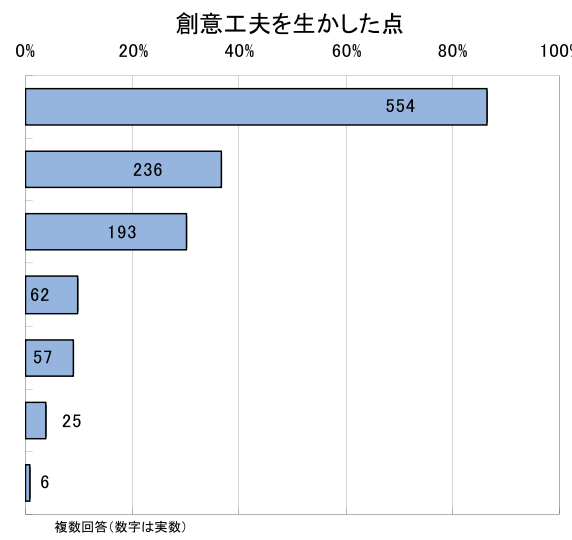
よりよい生産調整の推進

食の安全・安心の推進

農産物の消費拡大の推進

その他

無回答



ポイント1

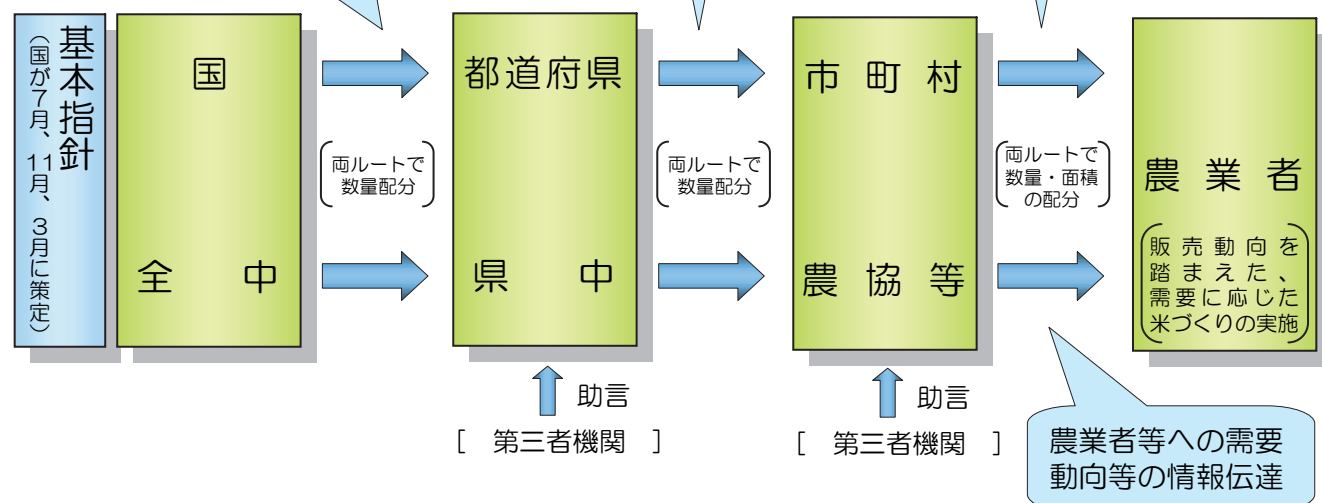
農業者・農業者団体の自主的・主体的な需給調整システムへの円滑な移行に向けて、意識改革を進め地域で穫れる米の需要に応じた生産を推進しましょう。

平成16年度（米政策改革スタート）からの当面の需給調整

【生産目標数量の配分】

県別の需要実績に基づき、透明性・客観性のある方法により生産目標数量を設定

「需要に応じた売れる米づくり」の要素（JAの販売戦略、消費者ニーズに対応した有機栽培米等の生産、実需者との結びつきなど）を取り入れ、地域水田農業ビジョンの実現に資するよう、工夫をしましょう。



「今年はこの銘柄がこれだけ売れた」ので
「来年はこの銘柄をこれだけつくる」という意識を確立！！

地域水田農業ビジョンの実現に向け
地域でよく話し合いましょう！

地域や農業者ごとの売れる
米づくりの取組に着目し、
市場の評価に応じた配分

地域の米の販売戦略の決定
【需要に応じて、誰が、ど
こで、どのような栽培方法
によりどれだけ米を作るか】

生産調整方針に即した需要に応じた米づくりの取組

仮に取組を行わない
地域では・・・
特徴のない米づくりで
地域の米の需要の減少
↓
生産量の抑制
↓
さらなる需要の減少
という悪循環に陥る
おそれ！

平成19年度又は、遅くとも平成20年度には、農業者・農業者団体の自主的・主体的な需給調整システムによる需要に応じた米づくりの実施

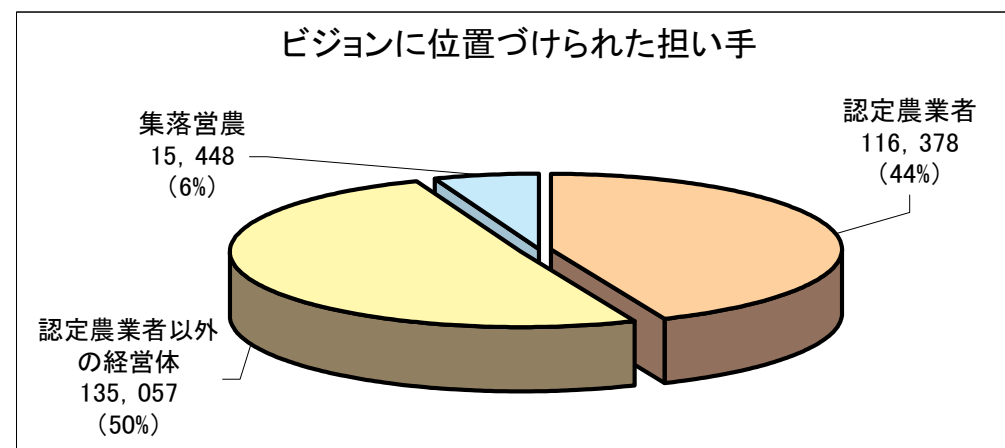
ポイント2

農業で他産業並みの所得をあげ得る経営を育成するため、地域水田農業ビジョンに位置づけられた「担い手」が認定農業者になるよう誘導しましょう。

担い手の明確化

○ 地域水田農業ビジョンにおける担い手の明確化

集落段階での話し合いを通じ、地域ごとに担い手を明確化する観点から、認定農業者や集落型経営体を中心に約27万経営体が一覧アップ。
しかしながら、効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者は、約4割。



○ 地域水田農業ビジョンの実施状況の点検・見直しに当たって

- ・ビジョンでリストアップされた担い手について、地域の水田農業の実情に応じ、毎年、点検し、担い手リストを更新しましょう！！
- ・ビジョンに位置づけられた担い手を認定農業者へ誘導しましょう！！

認定農業者以外の経営

他産業並みの所得をあげ得るような経営体を育成するという観点から認定農業者へ誘導

認定農業者

施策の集中
化・重点化

水田農業の構造改革の加速化

ポイント3 構造改革や産地づくりの推進といった地域水田農業ビジョンの実現に向けて、産地づくり交付金を有効に活用しましょう。

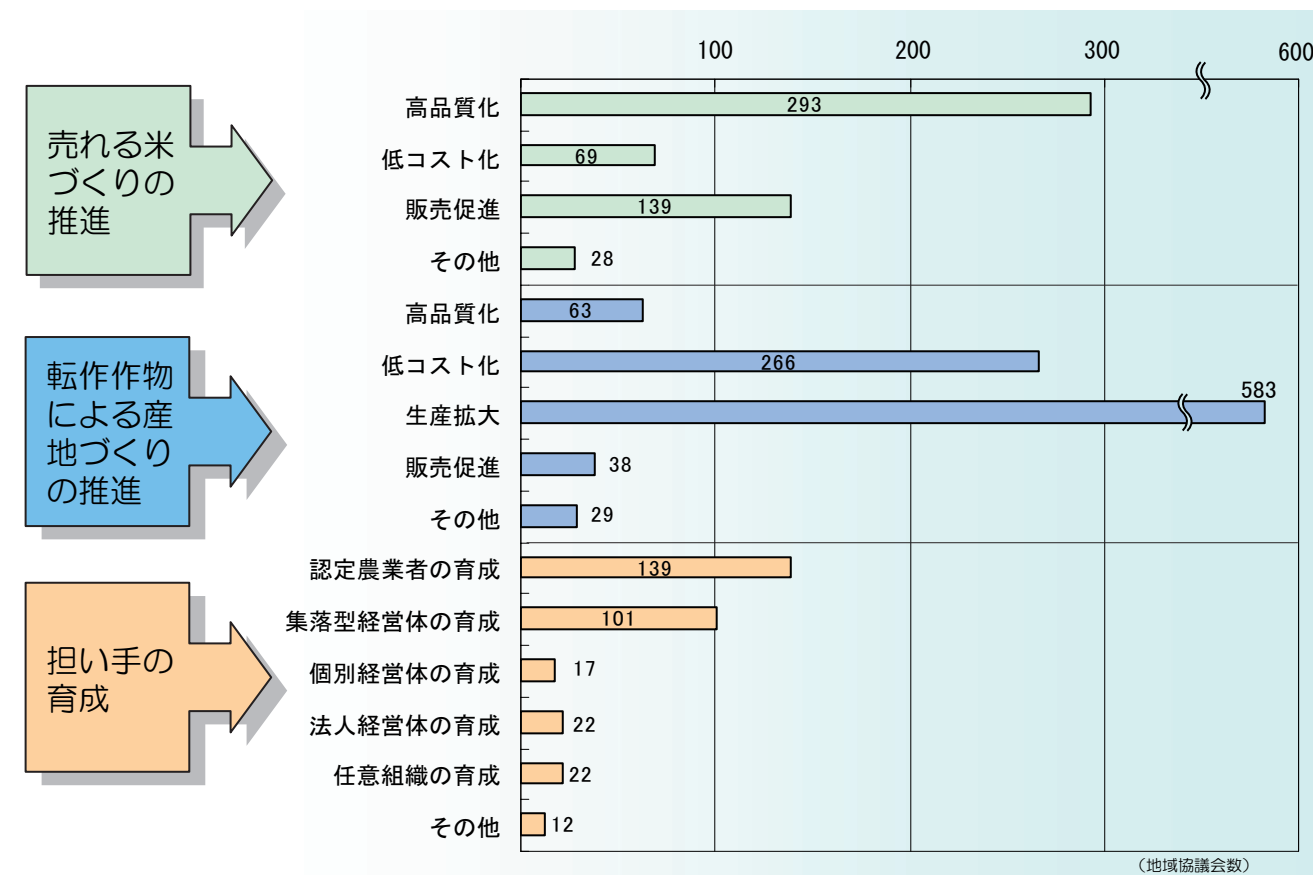
地域水田農業ビジョンなどの点検・見直し

- 地域水田農業ビジョンに掲げられた作物の作付や販売の、目標に対する初年度の実績とその成果を持ち寄って、今年1年を振り返ってみましょう。
- 地域水田農業ビジョンの実施状況の点検と合わせて、産地づくり交付金の使い方も積極的に見直しましょう。

見直しの視点

- ビジョンの目標にどれくらい近づいているか。
- 目標に到達するため、どの取組を強化すべきか。
- 産地づくり交付金の目的・趣旨が十分理解されているか。
- ビジョンの実現に向けて、産地づくり交付金は有効に活用されているか。

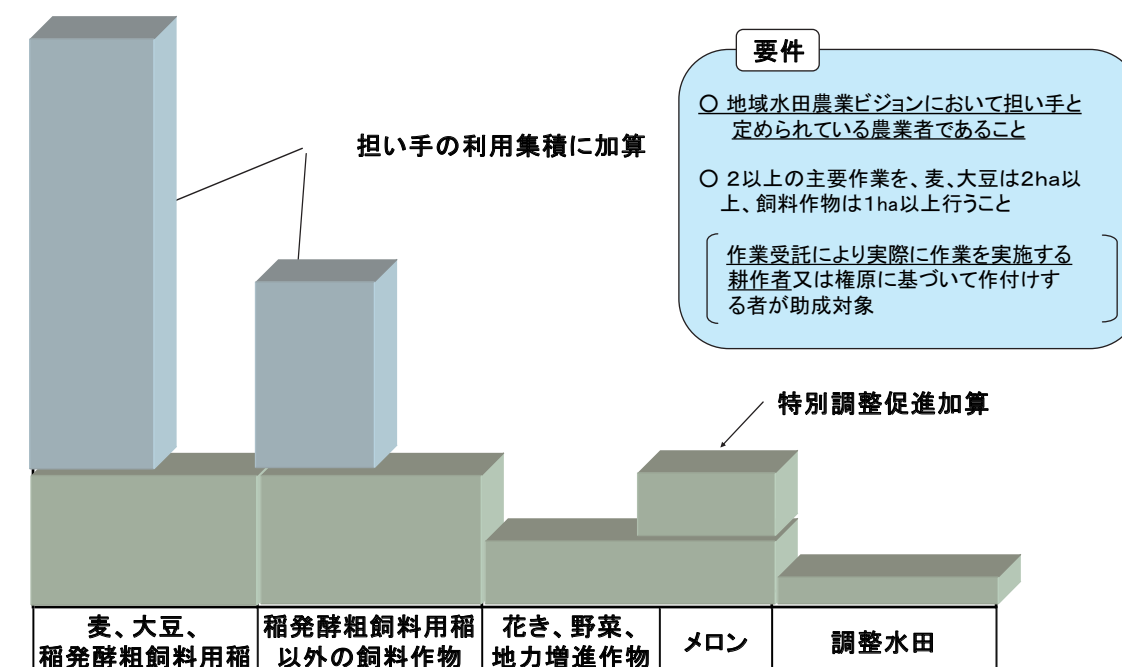
○ 地域水田農業ビジョンの最重点推進事項（16年）



○ 担い手に重点的に活用する事例（A県B町）

地域水田農業ビジョン

- ・ 担い手の利用集積を重点的に推進し、効率的かつ安定的な経営を育成。
- ・ 耕畜連携を進め、麦、大豆とともに稲発酵粗飼料用稲等を町の重点作物として推進。



<産地づくり対策の目的>

○ 産地づくり交付金

(本体) 構造改革や水田を活用した産地づくりといった、地域水田農業ビジョンの実現に向けた取組への支援

(特別調整促進加算) 意欲的な生産調整への取組（大幅な超過達成、地域特例作物の振興等）への支援

○ 麦・大豆品質向上対策（実績払い）

担い手による需要に即した高品質な麦・大豆の生産への支援

○ 耕畜連携推進対策（実績払い）

耕種農家と畜産農家の連携による水田を活用した飼料作物生産への支援

○ 畑地化推進対策（実績払い）

地域合意の下、計画的に永久畑地化を行う地域への支援

需要に応じた生産促進実践チェックリスト

以下は、需要に応じた生産を促進する上でチェックが必要な事項です。皆さんの地域の取組をチェックしてみましょう！

- ☐ あなたの地域の水田農業ビジョンに掲げる戦略作物は？
- ☐ あなたの米・麦・大豆等の販売担当は？
（ご自身、JA、集荷業者など）
- ☐ どのようなルートで最終消費されましたか？
（スーパーの小売り、コンビニ弁当、外食・中食、加工業者など）
- ☐ 用途ごとの販売量、販売価格は？
- ☐ 消費者・実需者の評価は？
- ☐ 売れ残り（在庫量）状況は？
- ☐ 全国、都道府県の銘柄別需要動向をチェックしていますか？



これらを踏まえた上で、販売計画を作成し
銘柄別生産量を決定！



地域で穫れる農作物の需要に応じた生産
～地域水田農業ビジョンの実現～